

【中学校の部】優秀賞

みんながあこがれるふるさとに

中津市立本耶馬溪中学校 2年
梶原 麻央

一面に山と緑が広がり、たくさんの生き物に囲まれている場所。それが私が住んでいる本耶馬溪である。鹿やタヌキ、イノシシといった動物や虫、草木など自然の活気に満ちている。都会にはない落ち着いた雰囲気やおいしい空気、田んぼや畑などの景色が見所となっている、自然豊かな場所だ。

私に通っている本耶馬溪中学校では、地域と関わりを持ち、ふるさとをPRするための活動をたくさん行っている。たとえばクリーン本耶馬という清掃活動。全校で学校周辺を歩いてゴミを拾い、地域をきれいにしている。この活動は何十年も前に生徒会が自主的に企画し、始めた活動である。生徒のふるさとをより良くしたいという思いがよく伝わってくる活動だと思う。昔から受け継いできた伝統で、本耶馬溪をきれいにするだけでなく、全校の団結力も強めることのできる活動だ。他にも本耶馬溪についてのポスターを作り、いろいろなところに貼らせてもらったり、プレゼンテーションを使って、本耶馬溪をより魅力的な町にするための提案を行ったりもしている。全校41人という少なさで、できることは多くはないが、地域のために活動しているという自信はある。

だが、やはり目につくのは高齢者の多さである。以前地域フィールドワークをしたが、歴史を感じられる貴重なものや自然はたくさんあるが、若い世代の目を引くものは少ないと感じた。田舎ならではの良さもあるが、もともと人が少ない上に都会に出て行く人が多く、少しずつ町としての活気が失われているように感じた。

私は、よいふるさととは自然の活気と町としての活気の両方があり、みんながあこがれるような場所のことだと考える。そして本耶馬溪をそんなよいふるさとにするためには、私たち中学生のような若い世代の活動が大切だと思う。それだけではなく、常日頃から、ふるさとをより良くするにはどうしたらいいのかを考えたり、今自分はどんなことができるのかを考えたりして、自分自身が自分のふるさとについて知っていくことが大切だと思う。また今まで学校で行ってきたポスターづくりなどだけではなく、インターネットなどを使い、時代の流れに合ったPRをしていくことで、自分のふるさとについて他の人に知ってもらうことができるのではないだろうか。そして若い世代の人たちが興味を持つような場所になるように、新しいものもつくっていきながら、元からあった自然や歴史を残し、伝えていくべきではないか。

私もたぶん、将来この町を出て行くことがあるだろうと思う。それは誰でも同じで、一度は外の世界を見たり、都会に行ってみたいと思ったりするだろう。それは仕方のないことだと思う。けれどもだからといってふるさとのことを忘れてしまうのではなく、ふるさとに誇りを持って、より良くしていこうと思うことが大切なのではないだろうか。遠くからでもふるさとをPRすることはできるだろうし、本耶馬溪に戻ってきて本耶馬溪のためにできる活動をするのもいいと思う。これから私はいつでもふるさとに誇りを持ち、より良いふるさとを創っていきたい。